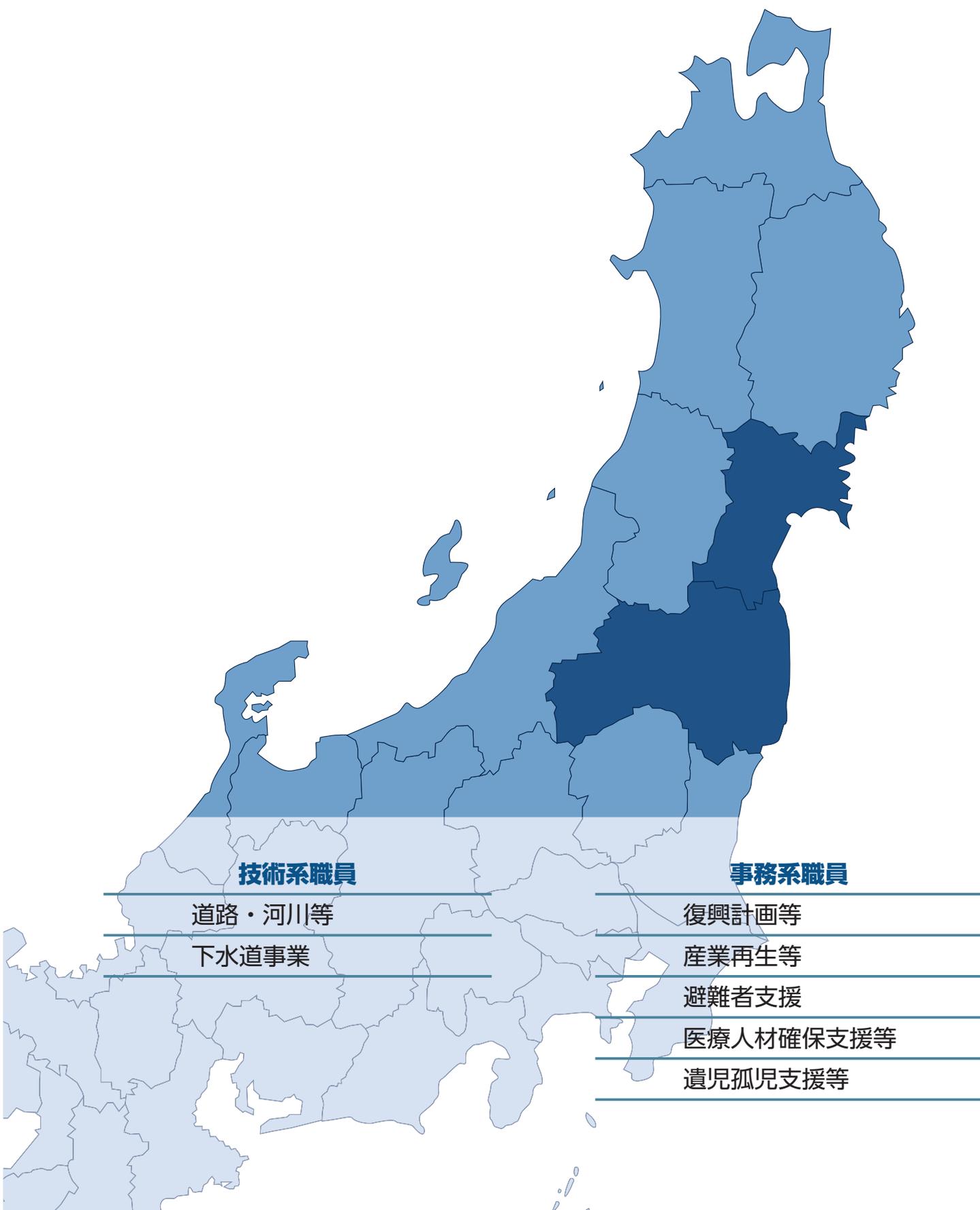


第1部 (東日本大震災)



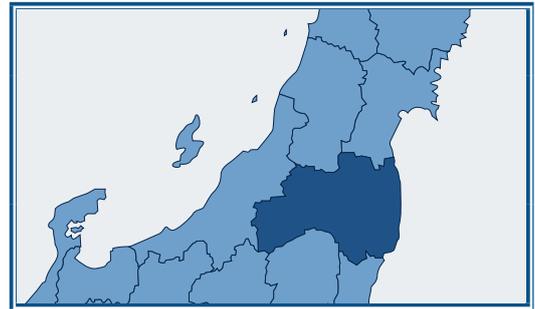
道路・河川等

福島県

相双建設事務所

復旧・復興部道路・橋梁課

齋藤 修（建設局）



派遣先部署の業務概要（組織の目的・規模・内容等）

福島県相双建設事務所は南相馬市に所在し、浜通りの2市7町3村（相馬市、南相馬市、双葉郡・相馬郡の各町村）を所管し、所管している市町村の総面積は、1,733.77km²で県全体の12.6%です。

相双建設事務所には総務部、復旧・復興部、企画管理部、事業部、建築住宅部の5部12課があり、139名の職員がいます。

このうち復旧・復興部は道路・橋梁課、復興祈念公園・海岸課の2課4係で構成され、24名（うち自治体派遣8名）が在籍しています。

東京都派遣1名は、道路・橋梁課に所属し、道路・橋梁の災害復旧事業の調査設計・施工監督を担当しています。



※旧警戒区域とは、福島第一原子力発電所から半径20km以内の地区について、身体等に対する危険防止のため出入り禁止となった区域。

あらたに令和5年3月に浪江町、4月に富岡町、5月に飯館村、11月に富岡町の特定復興再生拠点区域の避難指示解除がありました。震災から13年が経過した今も自分の家や土地があるにもかかわらず立ち入りができない帰還困難区域が多くあります。

【相双建設事務所基本方針】

令和元年東日本台風、東日本大震災等からの復旧・復興や国土強靱化関連の事業に全力で取り組み、相双地域の安全安心を高める社会資本の整備を進めます。

- ①令和元年東日本台風等からの復旧に取り組みます。
- ②東日本大震災からの復旧・復興に取り組みます。
- ③各市町村の事業を支援し、地方創生を進めます。
- ④自然災害から相双地域を守るため、国土強靱化を図ります。



南相馬合同庁舎

派遣者自身が担当した業務概要

県道広野小高線は浜街道と呼ばれる太平洋沿いを走る道路で、東日本大震災の津波で被災しました。このため、線形を陸側に移動し、かつ盛土して道路を高くする構造で、平成 29 年度から浪江小高間全延長 12.5km の新たなバイパス道路の工事を進めています。

このうち、浦尻工区（井田川南）の議会案件工事の設計、浦尻・角部内工区の委託（測量・設計・地質調査、環境調査、道路台帳整備等）及び旧道移管に伴う補修工事の設計・監督、関係機関との協議・調整等を担当しました。



【浦尻工区（井田川南）】



【角部内工区】

道路・河川等

業務の遂行に当たって、苦勞したこと、工夫したこと

首都東京都からのプロパー派遣職員としての誇りと使命感を持って日々の業務を遂行してきました。

印象的なエピソード（うれしかったこと、やりがいを感じられたこと等）

平成23年6月から開始した東日本大震災に係わる岩手・宮城・福島被災地3県への東京都建設局からの土木職派遣業務は今年度で終了となります。

平成23年6月～平成24年9月（1年4ヶ月）の岩手県派遣、平成31年4月～令和3年3月（2年）の岩手県派遣、令和3年4月～令和6年3月（3年）の福島県派遣業務に携わることができました。

無事に派遣業務を終えることができ安堵の気持ちでいっぱいです。

今後の都政に活かせること・活かしたいこと

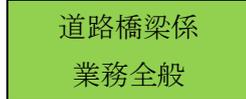
執行体制について、東京都では、工務担当、設計担当、工事総括担当、工事担当・工区、測量担当と分業制ですが、福島県では道路橋梁係が業務全般を一括して担当しています。（岩手県も福島県と同様）

どちらが効率的かは分かりませんが、東京都の体制は、時には係間の障壁が業務進行の妨げとなる場合があります。福島県の体制は、業務全般を直接的に担当することにより、係間の障壁もなく、責任の所在も明らかであり、間違いや対応不足に対し自身の力でフォローアップ（リカバー）することができる利点があると感じました。

○東京都の執行体制



○福島県の執行体制



また、福島県では、工事・委託の当初・変更起工にあたり、係長が積算、数量計算書、設計図等設計書一式を一枚一枚照査するチェック体制が確立していました。（岩手県も同様）

東京都における防災、災害対策等に活用できる経験・感想

防災・災害対策等の活用については、被災地3県の被災直後の道路啓開を学習しておく必要があると思います。

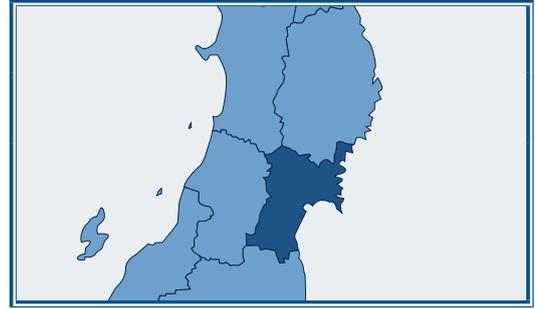
最後に、お世話になりました福島県・岩手県職員の皆様、被災地に送り出させていただきました建設局の皆様、これまでに福島県・岩手県の派遣業務に携わった皆様に感謝いたします。

下水道事業

石巻市

建設部 下水道建設課

小形 浩二郎（下水道局）



職員派遣（東日本大震災）

職員派遣（熊本地震）

現地事務所等

派遣先部署の業務概要（組織の目的・規模・内容等）

石巻市の概要

石巻市は、北上川の河口に位置し、宮城県北東部地域を代表する風光明媚な都市です。令和5年11月末日現在、人口134,919人（震災前:162,822人）面積554.55km²、みちのく宮城第二の都市です。市役所の職員数は、1,622人で、そのうち、他自治体から12人の派遣職員が在職しています。

石巻市の下水道

石巻市の下水道事業は、昭和46年3月に下水道基本計画を策定し、昭和56年10月から供用を開始しています。令和4年度末（令和5年3月末）時点での整備状況は、整備面積3,396.9ha、供用人口117,074人で、人口に対する普及率は、86.2%となっています。

排除方式は汚水と雨水とを別々の管で排除する分流式を採用しています。流域下水道関連公共下水道として2つの処理区、単独公共下水道として3つの処理区の合計5処理区について事業認可を受け事業を進めています。

組織の規模

石巻市建設部は、8課から構成されていて、149人が所属しています。

私たちが所属している下水道建設課は、市職員9名（課長1名、課長補佐2名含）、派遣職員3名、任期付職員2名、復興支援専門員1名、事務補助員1名の合計16人の組織です。2つの係で構成されており、計画係と建設係に分かれています。



図-1 石巻市位置図



図-2 建設部組織図

業務概要

【雨水排水の災害復旧・復興事業（計画係）】

東日本大震災で広域にわたり地盤沈下が発生し、市街地でも約1m地盤が沈下しました。ほぼ全ての地域が河川の水位より陸地（市街地）の高さが低い地形となり、大雨時には仮設排水ポンプの能力不足や雨水管の未整備を原因とした市街地の浸水が多々発生している状況にありました。

石巻市の市街地雨水計画として22排水区を策定し、それを基に雨水排水復興事業を行い、雨水ポンプ場と雨水幹線の整備が完成しました。

下水道事業

派遣者自身が担当した業務概要

私は派遣2年目となり、東日本大震災により発生した地盤沈下で、排水不良となった雨水排水施設の復興事業に引き続き携わりました。担当した案件は、新設した雨水排水ポンプ場1箇所の場内整備、新設した雨水幹線が2箇所と、その幹線に接続する人孔築造及び雨水枝線が1箇所となり、なかなかの業務量です。工事の計画・設計・施工の事業全体のマネジメントは日本下水道事業団に委託していましたが、事業団では担えない、国土交通省河川事務所、宮城県東部土木事務所、市内部の関係機関、地元住民対応等を主に行ってきました。令和5年度になるころには、競合工事（道路・河川等）、施工調整や他企業施設（電気・ガス・水道・通信）の移設調整も少なくなり、地域の方々からの苦情もそれほど多くなってきていました。東京都の派遣職員1名となり、神奈川県との派遣職員1名と墨田区の派遣職員1名の計3名でチームを組み、主担当は昨年度と同様に市の西側を担当しながら、今年度から市全体を担うようになりました。

業務の遂行に当たって、苦労したこと、工夫したこと

石巻市の公用車にはカーナビが付いていないながら市内の地理に詳しくなり、工事状況も詳しくなってきたことから、色々な問い合わせにもスムーズに対応できるようになりました。市内の雨水排水ポンプ場や雨水幹線ができて、そこに接続する既設水路からの取り込み管渠が未整備であったため、少量の降雨でも道路冠水する場所がありました。下水道工事が未完のときは、「工事は未だやっているのか、いつ頃終わるんだっチャ。」とお叱りや苦情の電話を受け、事業計画の丁寧な説明でご納得いただくしかありませんでした。それでも、幹線の下流側から順々に接続工事を行ってきた成果が徐々に見られ、最近では道路冠水も減っています。

令和4年度には復興交付金事業としては終わったのですが、引き続き雨水排水事業は継続しています。そのため、工事完成に向けて雨水排水の接続、移設した施設の復旧や、借用した用地の復旧を行い、限られた時間の中で施工範囲、工程調整などをして決められた期日に返還できるように努めています。

印象的なエピソード（うれしかったこと、やりがいを感じた事等）

印象的なエピソードは2つあります。1つ目は、復興事業として完成した石巻中央排水ポンプ場の見学会を開催することが出来たことです。事業期間は平成26年度から今年度までで10年間を要しました。事業費はポンプ場と幹線管渠を合わせて約620億円です。石巻市の下水道事業の復興交付金の内、約40%がこの整備に使われています。当時は、ポンプ場の地下構造物を建設するため、掘削中での地層は複雑で巨大な礫岩（直径約3m）があり想定外の大きさだったので、撤去することに非常に苦労していました。また、シールド掘進中も堅い層と緩い層が交互に現れる互層により、地盤改良などの補助工法が必要となり、河川管理者や道路管理者との協議に難航しながら施工を行ってきました。このようなことを踏まえながら、現場が非常に苦労しながら完成することができました。石巻中央排水ポンプ場は鉄筋コンクリート造り地上3階地下2階です。直径900mmが2台と直径2,000mmが3台の主ポンプを配置し、毎秒30.9m³を排出する能力を有しています。復興事業として施設が完成したことで全国から視察者が訪れるようになり、当時の苦労を踏まえて視察者に説明することができました。



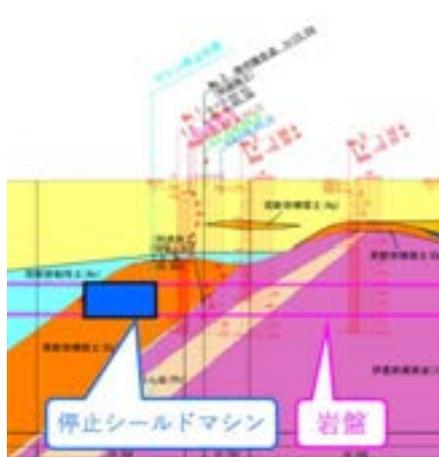
【石巻中央排水ポンプ場の全景 (R5.3)】
完成した石巻中央排水ポンプ場(日和山より)



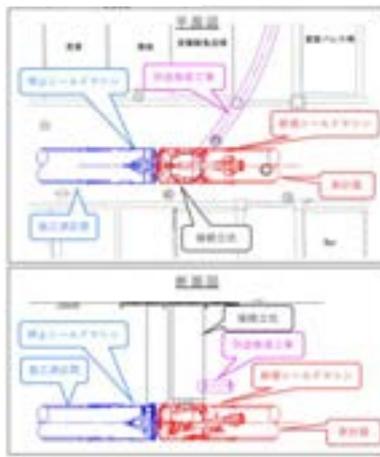
【国土交通省東北地方整備局の下水道事業視察】
担当していた石巻中央排水ポンプ場の概要説明 (R5.10)

2つ目は、下水道管渠のシールド工事に必要な発進立坑ヤードのため民間用地を借りました。土地交渉には時間を要しましたが、この土地の地権者の方々には借地期間の延長や地上権設定（地上権設定登記は、他人の土地を使う権利の一種で、地権者の土地内に公共施設物を設置し、建築条件等が発生することを言う。）した条件を付し、非常に無理なお願いをしてきましたが、快く承諾を頂き施工することができました。

シールド機が掘進停止してから再掘進するまで2年間かかりました。この間、東京都から派遣された前任の方々が用地交渉に当たり、私が引き継いだときには用地借用できる契約段階に至るまで経過していました。それから工事は順調に進み、1年半かけて令和5年10月に掘進停止していた管渠と地中接合することが出来ました。住吉1号幹線シールド機の到達や推進工事の到達が見られ、完成が近づいていることが実感できています。



【住吉1号幹線シールド機の掘進停止 (R2.5)】
ボーリング調査による地層断面



【地中到達の概要図】
新たなシールド機による地中接合部



【到達状況 (R5.10)】

今後の都政に活かせること・活かしたいこと

今年は、新型コロナウイルスが五類感染症に移行してから、各地のお祭りも通常開催となり、石巻市で毎年行っていた「川開き祭り」は100回記念の年となりました。石巻の花火では、全国でも数か所しか行われないドローンショーも開催されました。石巻市職員と共に孫兵衛船競漕に参加して準々

下水道事業

決勝まで行くことが出来ました。仲間達と掛け声「そ〜れ」とオールを力いっぱい漕いで、へっぴりになりましたが充実した大会になりました。休日では、市所有の農地を借用して野菜作りに挑戦しました。種まきから収穫まで種々なものが採れ、家族や友人に配ることが出来たくらいでした。

2年間宮城県で過ごせたことは、大変有意義でした。石巻市職員の皆様には公私ともに大変お世話になりました。ここは第2の「故郷」と思える場所になりました。宮城県石巻市に復興事業の応援職員として携わりましたが、その地域になじむようにプロパー職員と一緒に復興事業に取り組んできたことの経験を、今後の都政に活かしていきたいと思えます。



【借りた畑で芋掘り、一人収穫祭(R5.10)】



【石巻市職員(石工会)と孫兵衛船競漕に参加(R5.8)】

前列左端が墨田区派遣職員、中央に建設部長、右端が著者

東京都における防災、災害対策等に活用できる経験・感想

今年は台風による被害は無かったのですが、令和5年6月16日及び9月6日に、石巻市内に大雨警報が発令されて、一部地域には避難指示も出ました。中心市街地では大規模な道路冠水が発生しました。一部では通行止めが発生し交通に支障が出ました。日中は市内道路や施工中の下水道工事箇所のパトロールに出動して現場状況を写真に撮り、情報共有を図り対応しました。SNSなどの情報ツールが非常に役立ちました。

このようなことは、東京都でも発生することがあるので、情報ツールを活用し、緊急時の対策や対応をすることが防災、災害対策等に活用できる経験に繋がったと考えます。



【大雨による道路冠水 令和5年6月16日】
石巻中央幹線と既設水路の接続工事現場



【仮面ライダーV3】
石巻市役所前



【人形人間キカイダー】
著者の好きなキャラクター